

中国の今どきの若者「草莓（イチゴ）族」

岡山県上海事務所 池田 稔

(日中経済貿易センター上海事務所 所長)

若者気質の変化

「今どきの若者は…」という言葉は古くから言われ続けられているようですが、その時代、時代の社会を反映して若者たちの気質は変わり、年長者はその特徴により、若者達に様々な名前を付けてきました。私が社会に出た頃は「新人類」と呼ばれたのですが、20 数年を経てその「新人類」も日本ではすでに旧人類または化石化しようとしていると思われま

す。中国では誰もが経験しなかった経済の大きな発展に伴い、社会環境、価値観も大きく変化しました。若者には、その柔軟さから今までにない新しい価値観や気質が形成されますが、これらは中高年のかたい常識からは理解しがたく、批判の対象にもなりやすいでしょう。そんな最近の中国の若者気質を表すのが「草莓（イチゴ）族」です。

草莓族とは

「草莓族」とは台湾の小説から生まれたオフィスや職場の今どきの若者を現す言葉です。表面は艶やかで輝いていますが、その中身はやわらかく、ちょっとした圧力がかかるとすぐに壊れてしまうのです。

80 年代以降に生まれた「草莓族」は一人っ子で、両親祖父母から寵愛されて育ち、幼いときには「小皇帝」とも呼ばれました。その多くは大学で高等教育を受け、物質的にも豊かな温室環境で育ち、いま社会、経済の寒風の吹きつ

ける露地社会で働くようになりました。ある人材会社の分析によると「草莓族」の特徴は三高三低だそうです。

「三高」の一つ目は、学歴が高いことです。高学歴なので職を探すことも容易です。二つ目はイノベーション能力が高いことです。高い教育を受けた彼らは、自信に満ち職場で才能を發揮し新しいものを作り出し、評価を受けることが多いと言われています。三つ目は物質的要求が高いことです。高学歴であれば収入も高く、モノに不自由せず育った彼らは、車や住宅から服、食事など物質的生活への要求が高くなっています。

その反面が「三低」です。まず、能力があるゆえに選り好みが強くとどまるよりも、転職してステップアップを望むため、安定性が低いと言われています。二つ目は温室育ちのため挫折への抵抗力が低いことで、上司から受ける批判や自分の失敗に対して傷つきやすい面があります。三つ目はプレッシャーへの抵抗力が低いことです。大きなプレッシャーがかかると逃げることを選択してしまい、転職して社会生活をリセットしてしまうことすらあります。

高まる企業ニーズ

上海では経済の発展に伴い、産業構造の調整が進められ、現在、国際経済センター、国際金融センター、国際貿易センター、国際物流センターの四つのセンター建設を目指しています。すでに生産高、海外からの投資共に第三次産業

が第二次産業に代わり上海経済を牽引するようになり、雇用についても以前の製造業でのブルーカラーの雇用よりも R&D、地域本部、金融、貿易、不動産、ビジネスサポート、IT 産業など付加価値の高いホワイトカラーの雇用需要が増えてきています。「草莓族」へのニーズは高まる一方で、上海市も一定以上の地方出身の高学歴者の上海での雇用を促進するために、上海市戸籍を取得しやすくするなどの優遇策を講じています。中国での雇用の定着率の低さは問題にされることが多いのですが、企業が競争力を高め、安定して発展し、経済危機の厳しい環境を乗り越えて行くには、如何にこの「草莓族」の根をしっかりと自社に張らし、大きな実を生らすかが勝負どころです。

学歴は高いが手はなかなか動かない、自尊心は強いがプレッシャーに弱い、モノと楽しみに走り団体よりも個人の利益が優先する。そんな「草莓族」と付き合うには、それなりのソフトな心遣いが必要なようです。

(2012年2月)